

令和4年度 文部科学省委託事業 職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進  
教職員の資質能力向上に必要な教職員研修プログラムの構築・普及・推進事業

# 授業改善サポーター養成講座 マニュアル

一般社団法人 全国専門学校教育研究会



## 目次

第1章	はじめに	2
第2章	ロードマップ	3
第3章	カリキュラム	6
第4章	シラバス	9
第5章	研修会場マニュアル	14

## 使い方

本資料は上記の通り、「はじめに」「ロードマップ」「カリキュラム」「シラバス」「サーティフィケート」「研修会場マニュアル」の6章構成となっています。

「はじめに」では、本研修の具体的な到達目標を説明しています。受講者に共有して下さい。

「ロードマップ」では、“事前課題”“対面研修”“事後課題”の一連の内容を説明しています。受講者に共有して下さい。

「カリキュラム」では、“研修タイトル”“研修概要”“研修形態”“履修時間”“配布する教材・教具”“受講ターゲット”“受講最低条件”“受講条件上限”“受講のために受講者が準備する教具等”“本研修での到達目標”“評価方法”“研修スケジュール”“事前課題のeラーニング教材”について詳細に説明しています。受講者に共有して下さい。

「シラバス」では、9時間（3時間×3日）の対面研修内容を詳細に説明しています。受講者に共有して下さい。

最後に、「研修会場マニュアル」は、研修運営者が会場設営する上で、必要な機材・環境等の説明をしています。

## 第1章 はじめに

本研修の到達目標は以下の通りです。

- 授業改善サポーターとして、各種ツールを活用して授業改善のための **他者へのコンサルテーション**を行うことができる
- 自校における授業コンサルテーションの普及を目指した施策を、個人レベル、組織レベルで提案することができる
- 授業改善サポーターとして相談し支援し合えるコミュニティを形成する

具体的には以下の状態を目標とします。

- ① 他者への授業コンサルテーション実践力
  - (ア) 授業の目的・評価基準・活動設計を構造的に分析できる
  - (イ) ID（インストラクショナル・デザイン）理論を踏まえて課題を特定できる
  - (ウ) ルーブリック、観察シート、振り返りシート等のツールを活用し、改善提案を具体化できる
  - (エ) 「助言」ではなく「対話型コンサルテーション」を実施できる
- ② 組織内展開・制度設計力
  - (ア) 授業コンサルテーションの実施モデル（頻度・手順・役割分担）を設計できる
  - (イ) FD 活動や校内研修と接続した実装計画を策定できる
  - (ウ) 個人実践で終わらせず、組織文化に埋め込む施策を立案できる
- ③ 継続型コミュニティ形成力
  - (ア) 他校サポーターと実践事例を共有できる
  - (イ) 相談・助言を相互に行える関係性を構築できる
  - (ウ) 定期的な振り返り・報告・共同企画を提案できる

受講修了者は、『他校交流による視野拡張と主体的実践』、『授業設計・評価観の高度化』、『学生理解度の向上』、『学校全体への波及』、『リーダーとしての牽引役の発揮』、の5点が期待されています。単なるスキル習得ではなく、「個人の成長を組織変革へ接続すること」が期待されています。

自身の学校・コミュニティ等で本研修プログラムの普及促進を求めたい。自らが発起人として、教職員同士で知見を共有できる学びの場を作って頂くことを願っています。

## 第2章 ロードマップ

	内容	備考
オリエンテーション	① 講師、受講者の自己紹介 ② 研修グループの説明（1グループ3名想定） ③ 研修目的・内容・スケジュールの説明 ④ 学習管理システム（LMS）の使い方の説明 ⑤ 事前課題内容と提出方法、締切の説明 ⑥ コミュニケーションツールとしての facebook グループの紹介	研修 1（Day1） の2週間以上前に 実施すること
事前課題（研修1に向けて）	① <b>学習管理システム（LMS）内の掲示板での自己紹介をする。</b> まずは、氏名、所属、教育関連の経験や考え、授業改善支援への経験や考えなどを含む自己紹介を指定掲示板へ投稿してください。 投稿する際は、必ず、「職場からの期待」と「自身が本講座で達成したい目標」は含めてください。職場からの期待では、上司の方や同僚の方と、本講座の受講後、何をしたいのか、何ができて欲しいのかなどを話し、職場の期待をまとめてください。その上で、ご自身で何を達成したいかを考えてください。 ② <b>授業改善活動分析レポート</b> （評価基準など確認）。全国専門学校教育研究会の「授業改善サポータに関するアンケート結果」を読んでください。それらの結果を参考に、授業改善活動分析用テンプレートに、自校に関してレポートを作成してください。自校で活用している授業評価基準、授業見学用チェックリストなどがあれば収集し添付してください。レポートは期日までに指定箇所より提出してください。 ③ <b>授業シラバス案に対して改善提案</b> をしてください。 設定は以下の通りです。 同僚がシラバスを持って相談してきました。その同僚はまだ新任の教師で、他の先生のシラバスを見ながら自分なりに作ってみたそうです。良い授業になる様に、いろいろとアドバイスをしてみてください。 改善提案は、コメントを挿入しても、文字の色を変えても、変更履歴を残しても構わないので、変えたところがわかるようにしてください。 研修1の前までに指定箇所より提出してください。 ④ <b>熊本大学教授システム学分野拠点事業科目デザイン編で割り当てられたモジュール1つの学習。</b> モジュール（導入）、及び3モジュール（A、B、C）のうち割り当てられたモジュールを学習します。各モジュールには、動画、ppt、テストや複合問題があります。これらを使って学習の理解度をチェックしてください。	研修 1（Day1） の3日前までに学 習管理システム （LMS）内の指 定場所に提出す こと ④の3モジュールに ついて。どの受講者 がどのモジュールを 担当するか決めて おくこと。研修 1,2,3と3回ある 事前課題におい て、全てのモジュ ール（A,B,C）に各 受講者がトライして 頂くことが理想で す。

研修 1 (Day1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 自己紹介、研修説明</li> <li>② セッション 1:授業シラバスの改善提案</li> <li>③ セッション 2:授業をより良くするための具体的な提案</li> <li>④ 自校での授業コンサルテーション普及のための施策の検討</li> <li>⑤ アクションプラン作成</li> <li>⑥ 事後アンケートの回答</li> </ul>	
研修 1 (Day1) の事後課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>① アクションプランの提出</li> </ul>	研修 1 (Day1) 後、1 週間以内に学習管理システム (LMS) 内の指定場所に提出すること
事前課題 (研修 2 に向けて)	<ul style="list-style-type: none"> <li>① <b>省察レポートを提出する</b> 研修 1 の事後課題であるアクションプランに対する省察 (リフレクション) を行ってください。</li> <li>② <b>授業改善サポート実施報告 1</b> 研修 2 の 3 日前までに、授業改善サポートを何かしら実施し、そのレポートを作成し、指定箇所に提出してください。</li> <li>③ <b>授業シラバス案の改善提案のアップデート</b> 研修 1 のセッション 1&amp;2 を受けて、更なる改善提案を行ってください。今回の更新であることが分かるように記録を残してください。指定箇所へ提出してください。</li> <li>④ <b>熊大教授システム学分野拠点事業科目デザイン編：他の 1 モジュール</b> 前回の担当モジュールの次のモジュール (例：研修 1 の担当が A の場合は、モジュール B) を学習し、クイズ、複合問題にチャレンジしてください。</li> </ul>	研修 2 (Day2) の 3 日前までに学習管理システム (LMS) 内の指定場所に提出すること
研修 2 (Day2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>① セッション 1 (グループワーク) : 授業改善サポーター業務報告の共有 (授業改善)</li> <li>② セッション 2 (グループワーク) : 授業改善サポーター業務報告の共有 (普及活動)</li> <li>③ 全体議論 : 授業改善についての議論、授業コンサルテーション普及についての議論</li> <li>④ アクションプラン作成</li> <li>⑤ 事後アンケートの回答</li> </ul>	
研修 2 (Day2) の事後課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>① アクションプランの提出</li> </ul>	研修 2 (Day2) 後、1 週間以内に学習管理システム (LMS) 内の指

		定場所に提出すること
事前課題（研修3に向けて）	<ul style="list-style-type: none"> <li>① <b>省察レポートを提出する</b> 研修2の事後課題であるアクションプランに対する省察（リフレクション）を行ってください。</li> <li>② <b>授業改善サポート実施報告2</b> 研修3の3日前までに、授業改善サポートを何かしら実施し、そのレポートを作成し、指定箇所に提出してください。</li> <li>③ <b>グループ成果：サポートツールの開発</b> グループで開発した成果物（各種ツール）とその使い方などを説明した資料を指定箇所に提出してください。</li> <li>④ <b>熊大教授システム学分野拠点事業科目デザイン編：他の1モジュール</b> 前回の担当モジュールの次のモジュール（例：研修2の担当がBの場合は、モジュールC）を学習し、クイズ、複合問題にチャレンジしてください。</li> </ul>	研修3（Day3）の3日前までに学習管理システム（LMS）内の指定場所に提出すること
研修3（Day3）	<ul style="list-style-type: none"> <li>① セッション1（グループワーク）：授業改善サポーター業務報告の共有（授業改善）</li> <li>② セッション2（グループワーク）：授業改善サポーター業務報告の共有（普及活動）</li> <li>③ セッション3（グループワーク）：自校における授業見学評価用チェックシートの作成</li> <li>④ セッション4（全体議論）：研修全体の振り返り</li> <li>⑤ アクションプラン作成</li> <li>⑥ 事後アンケートの回答</li> </ul>	
研修3（Day3）の事後課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>① アクションプランの提出</li> <li>② 自己評価シートの提出</li> </ul>	研修3（Day3）後、1週間以内に学習管理システム（LMS）内の指定場所に提出すること
（任意）フォローアップ講座	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 90分程度の交流の場を作ります。修了生同士の学びをさらに深め、仲間との交流を楽しむことを目的とします。有識者を招いての講演会、勉強会を開催することもお勧めいたします。オフライン、オンライン開催のどちらでも可です。</li> </ul>	定期的に継続的に開催することが望ましい

## 第3章 カリキュラム

### 研修タイトル

授業改善サポーター養成講座

### 研修概要

専門学校における「実務経験はあるが指導法に不安がある」教員への支援や、組織的な授業改善の停滞という課題を解決するため、専門的な助言や教材開発支援を行える「授業改善サポーター」の養成を目的としています。

**主な目標**は、インストラクショナルデザイン（ID）に基づき、ツールを活用した他者へのコンサルテーション能力を習得すること、また本校での授業改善の普及施策を個人・組織レベルで提案し、支援し合えるコミュニティを形成することにあります。

**研修スケジュールと内容**は、オリエンテーション1回、研修全3回が実施します。また3回の研修終了後に任意でフォローアップ講座を実施します。

- **第1回**：サポーターの基礎を学び、シラバス改善や組織への普及施策を検討します。
- **第2回**：実際の業務報告を共有し、授業改善や普及活動の課題を議論します。
- **第3回**：授業見学評価シートの作成や、研修全体の省察を行います。

Facebook等を活用した継続的なコミュニティ形成も本講座の特徴です。

### 研修形態

オリエンテーション（オンライン）

ハイブリッドラーニング（事前課題、集合研修、事後課題）を3日程（オンラインまたはオフライン）

フォローアップ講座（オンラインまたはオフライン）

### 履修時間（目安）

- ① 研修1に向けた事前課題（3時間）
- ② 研修1（3時間）
- ③ 研修1の事後課題（1時間）
- ④ 研修2に向けた事前課題（3時間）
- ⑤ 研修2（3時間）
- ⑥ 研修2の事後課題（1時間）
- ⑦ 研修3に向けた事前課題（3時間）
- ⑧ 研修3（3時間）
- ⑨ 研修3の事後課題（1時間）

### 配布する教材・教具

（研修1）

- ① 改善サポーターに関するアンケート結果
- ② 授業改善活動分析用テンプレート
- ③ 授業シラバス\_ITリテラシー入門
- ④ 専門学校ケーススタディ（モジュール導入編、モジュールA、モジュールB、モジュールC）※研修2以降も使用
- ⑤ IDの観点から指導案チェックポイント

- ⑥ 授業改善サポーター\_アクションプランとリフレクションシート
- ⑦ 授業改善サポーター講座\_科目デザイン編チェックリスト
- ⑧ 授業改善サポーター実践報告書テンプレート
- ⑨ 授業改善サポーター養成講座研修 1 用スライド

(研修 2)

- ① 授業改善サポーター養成講座研修 2 用スライド
- ② 授業改善サポーター支援ツールと手法の種類

(研修 3)

- ① 授業改善サポーター育成講座\_自己評価シート

### 受講ターゲット

インストラクショナルデザインの基礎知識をもち、授業改善サポーターとして、他者に対してコンサルテーションを行い、自校での教育改善に寄与しようとする教職員

標準定員は 12 名とします (3 グループ作れる人数が良いので、12 名もしくは 15 名、9 名が理想です)

※各専門学校の管理職に本研修のご案内をして、(上記の実働をしてほしい) 教職員を推薦をもらう形で募集してください。

### 受講最低条件 (スキル・素養)

インストラクショナルデザインの基礎知識を持っていること (過去研修受講したことがある、自学自習など、基礎知識取得の方法は問わない)

### 受講のために受講者が準備する教具等

- ① インターネットに接続できる端末 (PC)  
事前課題の e ラーニング教材を受講するために必要です。
- ② Office (PowerPoint、Word、Excel) が入った PC
- ③ Zoom 等のオンライン会議サービス (オンライン開催回)
- ④ イヤホン (オンライン開催回)
- ⑤ Facebook アカウント

### 本研修での到達目標

- 授業改善サポーターとして、各種ツールを活用して授業改善のための **他者へのコンサルテーション**を行うことができる
- 自校における授業コンサルテーションの普及を目指した施策を、個人レベル、組織レベルで提案することができる
- 授業改善サポーターとして相談し支援し合えるコミュニティを形成する

具体的には以下の状態を目標とします。

- ④ 他者への授業コンサルテーション実践力
  - (ア) 授業の目的・評価基準・活動設計を構造的に分析できる
  - (イ) ID (インストラクショナル・デザイン) 理論を踏まえて課題を特定できる

(ウ) ルーブリック、観察シート、振り返りシート等のツールを活用し、改善提案を具体化できる

(エ) 「助言」ではなく「対話型コンサルテーション」を実施できる

⑤ 組織内展開・制度設計力

(ア) 授業コンサルテーションの実施モデル（頻度・手順・役割分担）を設計できる

(イ) FD 活動や校内研修と接続した実装計画を策定できる

(ウ) 個人実践で終わらせず、組織文化に埋め込む施策を立案できる

⑥ 継続型コミュニティ形成力

(ア) 他校サポーターと実践事例を共有できる

(イ) 相談・助言を相互に行える関係性を構築できる

(ウ) 定期的な振り返り・報告・共同企画を提案できる

受講修了者は、『他校交流による視野拡張と主体的実践』、『授業設計・評価観の高度化』、『学生理解度の向上』、『学校全体への波及』、『リーダーとしての牽引役の発揮』、の 5 点が期待されています。単なるスキル習得ではなく、「個の成長を組織変革へ接続すること」が期待されています。

#### 評価方法

事後課題の提出を以て評価する。研修講師フィードバックを実施する。

## 第4章 シラバス

本研修は、全 3 回の本講座と事前オリエンテーション、（任意の）フォローアップ講座で構成されます。大きな特徴は、各回に事前学習（3時間）と事後学習（1時間）が組み込まれている点です。授業の進め方は、**アウトプットと議論が中心**です。インストラクショナルデザインに基づくシラバス改善の検討や、ジグソー法を用いたグループワークを通じ、他者へのコンサルテーション技法を学びます。また、研修の締めくくりには毎回**アクションプランを作成**し、自校での実践・普及を促します。Facebook グループも活用され、受講者同士が相談・支援し合える環境で進行します。

### 【研修 1（Day1）のシラバス：授業改善サポーターの基礎 3 時間】

※「形態」列の表示 全体への講義…一斉、グループワーク…G、個人ワーク…個

時間配分	段階	学習活動	形態	教材	教具	講師指導のポイント
10分	導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修概要の説明</li> <li>・研修の目標確認</li> <li>・自己紹介</li> </ul>	一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善サポーター養成講座研修 1 用スライド</li> </ul>	（オフライン開催） <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクター &amp; スクリーン、又はモニター &amp; ケーブル</li> <li>・各自 PC</li> <li>・ Facebook グループ</li> <li>・ Zoom 等</li> </ul> （オンライン開催） <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自 PC &amp; Zoom 等</li> <li>・ Facebook グループ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己紹介で本研修に期待することを共有する</li> <li>・研修の内容、流れ、目標を紹介する</li> <li>・コミュニケーションツール（Facebook グループ）の活用方法の説明をする</li> </ul>
50分	相互評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セッション 1: 授業シラバスの改善提案</li> </ul>	G	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善サポーターに関するアンケート結果</li> <li>・授業改善活動分析用テンプレート</li> <li>・授業シラバス_IT リテラシー入門</li> <li>・専門学校ケーススタディ（モジュール 導入編、モジュール A、モジュール B、モジュール C）</li> <li>・ID の観点から指導案チェックポイント</li> <li>・授業改善サポーター講座_科目デザイン編チェックリスト</li> <li>・授業改善サポーター養成</li> </ul>	（オフライン開催） <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクター &amp; スクリーン、又はモニター &amp; ケーブル</li> <li>・各自 PC</li> <li>・ Zoom 等</li> </ul> （オンライン開催） <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自 PC &amp; Zoom 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修 1 の事前課題③を使い、授業シラバスを ID（インストラクショナルデザイン）で検証する方法を議論する</li> <li>・ID の基礎について復習する機会を提供する</li> </ul>

				講座研修 1 用スライド		
60分	相互評価	・セッション 2 : 授業をより良くするための 具体的な提案	G	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善サポーターに関するアンケート結果</li> <li>・授業改善活動分析用テンプレート</li> <li>・授業シラバス_ITリテラシー入門</li> <li>・専門学校コーススタディ (モジュール 導入編、モジュール A、モジュール B、モジュール C)</li> <li>・ID の観点から指導案チェックポイント</li> <li>・授業改善サポーター講座_科目デザイン編チェックリスト</li> <li>・授業改善サポーター養成講座研修 1 用スライド</li> </ul>	<p>(オフライン開催)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクター &amp; スクリーン、又はモニター &amp; ケーブル</li> <li>・各自 PC</li> <li>・Zoom 等</li> </ul> <p>(オンライン開催)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自 PC &amp; Zoom 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修 1 の事前課題②について、ジグソー法を用い、観点を共有する</li> <li>・セッション 1 のシラバスへの提案を更に検討する</li> </ul>
45分	相互評価	・自校での授業コンサルテーション普及のための施策の検討	G	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善サポーターに関するアンケート結果</li> <li>・授業改善活動分析用テンプレート</li> <li>・授業シラバス_ITリテラシー入門</li> <li>・専門学校コーススタディ (モジュール 導入編、モジュール A、モジュール B、モジュール C)</li> <li>・ID の観点から指導案チェックポイント</li> <li>・授業改善サポーター講座_科目デザイン編チェックリスト</li> <li>・授業改善サポーター養成講座研修 1 用スライド</li> </ul>	<p>(オフライン開催)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクター &amp; スクリーン、又はモニター &amp; ケーブル</li> <li>・各自 PC</li> <li>・Zoom 等</li> </ul> <p>(オンライン開催)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自 PC &amp; Zoom 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修 1 の事前課題①を用い、自校での強み、改善点などを確認し、組織への提案、個人でやるべきことを検討</li> </ul>

10分	復習 振り返り	・アクションプランの作成 ・事後アンケートの回答	個 G	授業改善サ ポーター_アク ションプランとリ フレクションシ ート	(オフライン開 催) ・プロジェクター &スクリーン、 又はモニター &ケーブル ・各自 PC ・Zoom 等  (オンライン 開催) ・各自 PC & Zoom 等	・研修 1 の振り返りをしながら、自校組織への働きかけ、(1) 個人でのアクションを、(2)授業コンサルティング普及への施策、 (3)授業改善サポーター業務、自身の知識・スキル開発の 3 項から、計画を立てる
-----	------------	-----------------------------	--------	---	---	---

### 【研修 2 (Day2) のシラバス : 授業改善サポーター業務の実践と省察 (1) 3 時間】

時間 配分	段階	学習活動	形態	教材	教具	講師指導のポイント
90分	相互評価	・セッション 1: (グループ ワーク) 授業改善サポーター業務 報告の共有 (授業改 善)	G	・授業改善サ ポーター養成 講座研修 2 用スライド ・授業改善サ ポーター支援ツ ールと手法の 種類 ・専門学校ケ ーススタディ (モジュール 導入編、モジ ュール A、モジ ュール B、モジ ュール C) ・授業改善サ ポーター実践 報告書テンプレ ート	(オフライン開 催) ・プロジェクター &スクリーン、 又はモニター &ケーブル ・各自 PC ・Zoom 等  (オンライン 開催) ・各自 PC & Zoom 等	・研修 2 の事前課題②について、ジグソー法を用い、観点を共 有する(研修 1 とは違うメンバで実施) ・授業改善サポーター業務報告を共有し、より良い授業改善 方法があったかを議論する
60分	相互評価	・セッション 2: (グループ ワーク) 授業改善サポ ーター業務報告の共有 (普及活動)	G	・授業改善サ ポーター養成 講座研修 2 用スライド ・授業改善サ ポーター支援ツ ールと手法の 種類 ・専門学校ケ ーススタディ (モジュール 導入編、モジ ュール A、モジ ュール B、モジ ュール C) ・授業改善サ ポーター実践 報告書テンプレ ート	(オフライン開 催) ・プロジェクター &スクリーン、 又はモニター &ケーブル ・各自 PC ・Zoom 等  (オンライン 開催) ・各自 PC & Zoom 等	・研修 1 の事後課題①を共有し、普及活動での課題や問題、 解決方法を議論する
80分	相互評価	・セッション 3: (全体議 論) 授業改善についての 議論、授業コンサルテ ーション普及についての議論	一斉	・授業改善サ ポーター養成 講座研修 2 用スライド ・授業改善サ ポーター支援ツ	(オフライン開 催) ・プロジェクター &スクリーン、 又はモニター &ケーブル	・セッション 1 と 2 を踏まえ、全体で更に議論 ・コミュニケーションツール (Facebook グループ) の投稿を確 認し、コミュニティの活性化について検討

				<ul style="list-style-type: none"> <li>ールと手法の種類</li> <li>・専門学校ケーススタディ（モジュール導入編、モジュール A、モジュール B、モジュール C）</li> <li>・授業改善サポーター実践報告書テンプレート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自 PC</li> <li>・Zoom 等</li> </ul> <p>（オンライン開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自 PC &amp; Zoom 等</li> </ul>	
10分	復習 振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アクションプランの作成</li> <li>・事後アンケートの回答</li> </ul>	個 G	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業改善サポーター_アクションプランとリフレクションシート</li> </ul>	<p>（オフライン開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクター &amp; スクリーン、又はモニター &amp; ケーブル</li> <li>・各自 PC</li> <li>・Zoom 等</li> </ul> <p>（オンライン開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自 PC &amp; Zoom 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修 1 の振り返りをしながら、自校組織への働きかけ、(1)個人でのアクションを、(2)授業コンサルティング普及への施策、(3)授業改善サポーター業務、自身の知識・スキル開発の 3 項から、計画を立てる</li> </ul>

### 【研修 3 (Day3) のシラバス : 授業改善サポーター業務の実践と省察 (2) 3 時間】

時間配分	段階	学習活動	形態	教材	教具	講師指導のポイント
60分	相互評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セッション 1: (グループワーク) 授業改善サポーター業務報告の共有 (授業改善)</li> </ul>	G	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善サポーター養成講座研修 3 用スライド</li> <li>・専門学校ケーススタディ (モジュール導入編、モジュール A、モジュール B、モジュール C)</li> <li>・授業改善サポーター実践報告書テンプレート</li> </ul>	<p>（オフライン開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクター &amp; スクリーン、又はモニター &amp; ケーブル</li> <li>・各自 PC</li> <li>・Zoom 等</li> </ul> <p>（オンライン開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自 PC &amp; Zoom 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修 3 の事前課題②について、ジグソー法を用い、観点を共有する(研修 1 とは違うメンバで実施)</li> <li>・授業改善サポーター業務報告を共有し、より良い授業改善方法があったかを議論する</li> </ul>
30分	相互評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セッション 2: (グループワーク) 授業改善サポーター業務報告の共有 (普及活動)</li> </ul>	G	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善サポーター養成講座研修 3 用スライド</li> <li>・専門学校ケーススタディ (モジュール導入編、モジュール A、モジュール B、モジュール C)</li> <li>・授業改善サポーター実践報告書テンプレート</li> </ul>	<p>（オフライン開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクター &amp; スクリーン、又はモニター &amp; ケーブル</li> <li>・各自 PC</li> <li>・Zoom 等</li> </ul> <p>（オンライン開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自 PC &amp; Zoom 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修 2 の事後課題①を共有し、普及活動での課題や問題、解決方法を議論する</li> </ul>

60分	相互評価	・セッション3：（グループワーク）自校における授業見学評価用チェックシートの作成	G	・授業改善サポーター養成講座研修3用スライド ・専門学校ケーススタディ（モジュール導入編、モジュールA、モジュールB、モジュールC） ・授業改善サポーター実践報告書テンプレート	（オフライン開催） ・プロジェクター&スクリーン、又はモニター&ケーブル ・各自PC ・Zoom等  （オンライン開催） ・各自PC & Zoom等	・自校の授業見学評価シートの共有、使いやすさ、妥当性、信頼性の観点から検討する
20分	相互評価	・セッション4：（全体議論）研修全体の振り返り	一斉	・授業改善サポーター養成講座研修3用スライド ・専門学校ケーススタディ（モジュール導入編、モジュールA、モジュールB、モジュールC） ・授業改善サポーター実践報告書テンプレート ・授業改善サポーター育成講座_自己評価シート	（オフライン開催） ・プロジェクター&スクリーン、又はモニター&ケーブル ・各自PC ・Zoom等  （オンライン開催） ・各自PC & Zoom等	・セッション1,2,3を踏まえ、全体で更に議論 ・コミュニケーションツール（Facebookグループ）の投稿を確認し、コミュニティの活性化について検討 ・3回の一連の研修の振り返りを行う
10分	復習 振り返り	・アクションプランの作成 ・事後アンケートの回答	個 G	・授業改善サポーター_アクションプランとリフレクションシート	（オフライン開催） ・プロジェクター&スクリーン、又はモニター&ケーブル ・各自PC ・Zoom等  （オンライン開催） ・各自PC & Zoom等	・今回および3回の研修の振り返りをしながら、自校組織への働きかけ、(1)個人でのアクションを、(2)授業コンサルティング普及への施策、(3)授業改善サポーター業務、自身の知識・スキル開発の3項から、計画を立てる

**[（任意）フォローアップ講座：協働とネットワーキング 1.5時間程度]**

修了生同士の学びをさらに深め、仲間との交流を楽しむことを目的とします。有識者を招いての講演会、勉強会を開催することもお勧めいたします。オフライン、オンライン開催のどちらでも可です。

## 第5章 研修会場マニュアル

### オフライン開催の場合の機材、設備

- ① 講師用ノート PC (スライド投影用) 1 台
- ② 受講者用ノート PC (各自 1 台用意)
- ③ プロジェクター1 台、スクリーン 1 台 (大きなモニター、PC 接続ケーブルでも可)
- ④ マイク (講師用 1 本、受講者プレゼン用 1 本)
- ⑤ Microsoft Office (PowerPoint、Word、Excel)
- ⑥ Zoom (アーカイブ録画用 ※講師スライドを Zoom で画面共有すること)
- ⑦ ネット環境 (講師、全受講者が同時接続可能かを確認する)
- ⑧ 対面研修用の会場 (研修内でスクール形式→グループ毎の島レイアウトに変化することを想定)
- ⑨ グループ用テーブルと椅子 ※1 グループ 3-4 名想定、人数分用意
- ⑩ ホワイトボード (グループの数分)、黒赤青のマーカー1 本ずつ
- ⑪ 電源、延長コード (受講者数に応じて必要数用意する)

### オンライン開催の場合の機材、設備

- ① カメラ内蔵の受講者用ノート PC (各自 1 台用意)
- ② Zoom 等のオンライン会議システム (録画、個別部屋が作れるブレイクアウトルームのような機能が使えること)
- ③ Microsoft Office (PowerPoint、Word、Excel)
- ④ 教材等が格納された指定の学習管理システム (LMS)
- ⑤ イヤホン (同一部屋で受講者が Zoom 参加する場合に備えて)
- ⑥ 電源、延長コード (受講者数に応じて必要数用意する)
- ⑦ ネット環境 (講師、受講者用)

---

2026年3月発行  
一般社団法人 全国専門学校教育研究会  
URL : <http://www.zsenken.or.jp/>

---

●本書の内容を無断で転記、掲載することは禁じます。